vol.610

mj "農は農力、作は作業、情報はマック"
THE MAC JOURNAL
三菱商事アグリサービス株式会社

◆ 2022年4月13日発行ラインナップ
・環境負荷低減政策　栽培歴見直しへ
・関西農業Week視察
・関西お花見の名所ご紹介

# 環境負荷低減政策　栽培暦見直しへ

## みどりの食料システム戦略始動　過剰散布の点検実施へ

農水省は政府が掲げるみどりの食料システム戦略に基づき環境負荷低減の施策に伴い全国の都道府県及び単協が発行している農産物の栽培暦の点検を行い、肥料においては過剰施肥を、農薬においては過剰散布基準となってないか検証を進めるとして全国キャラバンを実施すると発表している。まずは本年度に現存の栽培暦に対してアンケートを実施、2024年までを栽培暦の見直し重点期間と位置付ける。作物を栽培するために作成された栽培暦は全国で600近くあるとされている。農水省は環境負荷低減対策としてみどりの食料システム戦略で打ち出している、「2050年までに化学肥料を30％削減」「化学合成農薬を50％の削減」の実行を開始した。都道府県や単協が示す栽培暦は農家にとって作物を栽培するにあたり資材を選定する際の基準とするいわば教科書のような存在だ。特に農薬の場合、抵抗性がつく病害虫も多いため毎年のように新薬が発売され栽培暦が更新されるため、農家は資材購入の際にとても重要視している場合が多い。肥料の場合は栽培暦に記載されている施肥基準が土壌分析の結果、養分が過剰蓄積となっているかの有無を検証し、過剰蓄積傾向にある場合は作物の収量や品質が落ちない程度に見直しを図るよう国は見直しを促していくようだ。また、より環境に配慮した栽培暦に見直しを図る地域においては実証を行い広く普及につなげていく。農水省は全国200か所にて本年にも環境負荷低減に実用段階である資材や機材や営農技術を実証する現地検証を同時に行っていく。検証する内容は堆肥による土づくりやドローンによる葉色診断とピンポイント施肥、中干しの長期実施によるメタン排出量低減効果の実地検証があげられている。そこで、肥料の場合どのようなところに栽培暦のメスが入るのだろうか考えてみた。

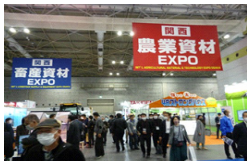
まず、水稲の場合は全農や国内主要肥料メーカーが2030年までに現行のプラスチック被覆樹脂肥料に頼らない動きをしていくと発表しており、これによりこのシェア分の樹脂緩効性肥料は2030年までに衣替えを順次図っていく必要があろう。もちろん、樹脂緩効性肥料を使用しない基肥と穂肥が化学肥料を基準とした慣行施肥パターンも見直しとなるだろうが、水稲においては今後各地域において被覆樹脂肥料からどのような資材に転換が図られるのか興味のあるところだ。一部の地域では被覆樹脂肥料を使用した苗箱全量基肥施肥を採用している場合もあり、肥料や施肥法を変えるだけでなく移植機等も変更することになるとコスト高は避けられない。水稲では大規模化に伴う作業の省力化から根強く残っている田植え同時施肥が出来るペースト肥料の2段局所施肥法はいまいちど日の目を浴びる事になるかも知れない。リアルタイムの養分分析をしながらの田植え同時可変施肥が出来れば肥料代のコストが下がるのだが、まだ技術は追いついていないので今後期待したいところだ。また、畑作では肥料の施肥法を全層施肥から側条施肥や定植時におけるセル苗内局所同時施肥等、施肥量の削減につながるような方法も注力的にPRされることだろう。その他には家畜糞堆肥の有効活用化は都道府県が一番に考える事で全面に押し出してくるだろう。化学肥料原料の価格高騰もあり、家畜糞堆肥の養分を差し引いた化学肥料の施肥量軽減化が見えやすい。ただし、忘れてはならない大事なことは家畜糞堆肥の養分の肥効がどのような形で効くものなのか、セットでキチンと指導していく事が大事ではないかと考える。家畜糞処理に困る畜産業者は多い。これまでもそうだが未利用資源の利活用と称しながら未熟物を糞尿の捨て場の如く田畑を捉えるような動きはさせてはならない。家畜糞堆肥が適正に処理されているかについては都道府県も積極的に関与し監視するよう求めたい。畑作物の場合、樹園地・果樹・露地栽培や施設栽培においては各作物・作型によって減肥指針が既に出ている産地もあるが、まだ全国的に普及されているレベルにはない。各都道府県の協議会が作物毎に収量や品質が落ちない程度はどの位までの値なのか、特にリン酸や加里過剰における同成分の減肥基準の明確化を実証し周知される事を望みたい。このような動きの中で生産者はどう反応し適応してくれるだろうか。生産者は一度気に入った肥料はなかなか変えたがらないと聞く。この運動が生産者のこころを動かし、

（次ページへ続く）

（前ページより続く）
環境負荷軽減の意識を持って自ら変えていくような取組となるよう期待したい。

---

# 「関西農業Week」視察




去る2022年3月8日(火)～10日(木)、インテックス大阪で開催された「関西農業Week2022」を視察してきた。農業資材EXPO・スマート農業EXPO・6次産業化EXPO・畜産資材EXPOに分かれて展示されていた。出展社数は200社程度で、肥料については、化成肥料を展示している業者はなく、液肥や腐葉土、栄養材を見かける程度であった。目についたのは、ドローン、包装機、植物工場システム等であった。コロナ禍が続いている中の開催だったが、昨年の来場者数6,665人に対し、今年は7,766人と増えた模様。中日の9日(水) に視察したが、混雑は見られなかった。大阪での開催は今年が5回目、来年5月に九州で初めて農業Weekを開催する予定で会場はグランメッセ熊本、農業資材EXPO・スマート農業EXPO・畜産資材EXPOの3EXPOの予定。九州の方でご興は味ある方はチェックしてみてはいかがでしょうか。

---

# 関西お花見の名所ご紹介

今年もお花見のシーズンがやってまいりました。オミクロン株がやや落ち着いていることもあり、全国的に多くの方が各地の名所に繰り出したようです。さて、関西にも全国的に有名なお花見スポットがありますので、ご紹介致します。

**「大阪城公園」** 大阪府大阪市中央区／中央にそびえる天守閣を取り囲む約105万6000㎡の史跡公園で、数々の重要文化財が残る。園内には約3,000本の桜があり、なかでも西の丸庭園にはソメイヨシノを中心におよそ300本が植栽されており、大阪府の「桜の標準木」があることで有名。付近の造幣局の桜も人気スポット。

**「円山公園」** 京都府京都市東山区／公園のほぼ中央に、「祇園の夜桜」として有名な大きなシダレザクラがある。初代のシダレザクラは根回り4m、高さ12m、樹齢200年余で昭和13年に天然記念物に指定されたが、昭和22年に枯死。現在は2代目で、昭和3年に初代の桜から種子を採取し育て、昭和24年に植栽したものだそうです。容姿は、樹高12m、幹回り2.8m、枝張り10mの大木。桜祭りとしての催事は行われないが、ライトアップが行われ、夜桜の名所として花見客で賑わうという。3月下旬～4月上旬にかけてシダレザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラなどが咲き誇ります。

**「吉野山の桜」** 奈良県吉野郡吉野町/7世紀後期に役行者[えんのぎょうじゃ]が山上に金峯山寺[きんぷせんじ]を開き、蔵王権現の姿をヤマザクラの木をもって刻んだことに始まり、信者たちの寄進してきた桜の苗木が吉野山を埋めている。吉野神宮およびロープウェイ周辺を下千本、如意輪寺付近を中千本、吉野水分[よしのみくまり]神社付近を上千本、そしてさらに奥にある西行庵一帯を奥千本と呼び、下・中・上・奥千本と約3週間に渡って約3万本の桜の花が次々に咲く。大峰山脈の北端、南北に続く約8kmの尾根から谷一帯が全山桜色に霞む様は圧巻です。

吉野山の桜・奥千本を除いて今年の見頃は過ぎておりますが、来年のお花見の時期には各地の3名所巡りの旅に関西を訪れて見てはいかがでしょうか。 （大阪支店）

---

※609号掲載記事の訂正削除とお詫び※ 609号に記載致しました以下内容につきまして、編集局の認識相違がございましたので本文中より削除させて頂きます。
削除箇所「ただし、ポリ容器の在庫もあるためメーカー側の対応としては容器在庫を使い切り次第順次改版し注意喚起事項を記載するよう対応していく事となろう。」
→正しくは11月1日に施行された場合、包装容器在庫有無如何に問わずその期日以降に生産する該当肥料は、被覆資材としてプラスチックや硫黄等を使用している旨を示す注意喚起文を包装容器内に記載する義務が発生します。訂正してお詫び申し上げます。

編集事務局：南部、助川
電話：03-5275-5511/E-mail： macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp